

平成3年6月17日

『福祉のまちづくり』は、区民参加で！

豊島区福祉のまちづくり推進会議発足

17日(月)午後2時から、豊島区役所にて、第1回豊島区福祉のまちづくり推進会議が開催された。

これは、平成元(1989)年度から、豊島区が取り組んでいる「福祉のまちづくり」に「生活者の意見」を反映させようと今回新たに設置されたもの。18名の区民と10名の部課長級区職員、区社会福祉協議会及び都福祉局職員各1名の合計30名の委員で構成されている。

今回委嘱を受けた18名の区民委員は、障害者団体役員8名、民生委員2名、区政モニター経験者2名、商店街役員2名、町会役員2名、老人クラブ役員2名。

会議では、まず加藤一敏区長が、推進委員一人ひとりに委嘱状を手渡した後、挨拶の中で「『高齢者も若者も、障害を持つ人もそうでない人も、ともに暮し、ともに生きる社会こそ普通の社会である』というノーマライゼーションの理念に基づき、公共建築物、道路、公共交通機関などの福祉環境整備を進めていますが、さらに的確で効果的な事業の推進には、区民の方々の参加をもとに、ノーマライゼーション思想の定着はもちろん、状況の変化に対応し、実情に応じた見直しが必要です」と、推進会議設置の目的を改めて強調した。

第1回目この日は、自己紹介、経過説明が中心となったが、今後、この推進会議では、各委員が、それぞれの目の高さから見て感じた「福祉のまちづくり」への意見を交換していく予定。任期は2年間。

問合せ 豊島区福祉課 障害者福祉係